

証人申請出そろい

Sさん裁判山場へ

○横浜新人学校事務職員解雇問題○

3月8日、Sさん免職処分取消訴訟の第14回口頭弁論が行われた。双方の証人申請が行われ、今後は弁論準備→証人尋問と裁判はいよいよ山場を迎える。

証人申請と

対市教委行動

毎回裁判の前段に市内駅頭で行っている街頭宣伝、この日も支援の人々を含め20人が参加した。待ち合わせの間ハンドマイクでのアピールに耳を傾ける人、足を止めて横断幕に見入る人、一旦通り過ぎてからビラを受け取りに戻る人など、反応は良い。

宣伝終了後、これも恒例の市教委への申し入れ行動。当局担当者は例によって「係争中の事案につき一切答えられない」の一点張り。「Sさんの貴重な一日一日が無にされていることに痛みを感じないのか」「きちん」と労使交渉を行え!」廊下に怒りの声が響いた。

法廷は今回も満杯

傍聴席は一杯で一部入

れない人も出てしまった。原告Sさん側から証人申請が行われた。本人Sさん、元学校事務支援員Nさん(市教委により2年前無理やり学校現場から引きはがされ、市教委に配置換えさせられた方)、がくろう神奈川横浜支部役員(Sさん問題で当局と交渉した経緯、学校事務職員の仕事全般について)の3名を申請、それぞれ陳述書を提出した。別に元横浜市職員(類似事例の新採用者分限免職処分を同僚として見分された方)の陳述書も提出した。

被告「横浜市側は新たに「争点整理について」を提出し、前回証人申請

したSさんが在職当時の、校長と東部学校教育事務所教職員係長、同学事支援第二係長の3名の陳述書を提出した。

双方の証人申請が出そろったところで、次回は弁論準備を行うことになった。これは公開の法廷で行うものでなく、争点整理を行い証人の採否を決するためのもの。その次はいよいよ証人尋問と裁判は山場に入る。

力強い支援の声

終了後、報告集会を開港記念会館で行う。弁護士から、被告側の「争点整理について」に対しては弁論準備までに反論を提出すること、裁判官にどこが争点なのかを明瞭に認識させることが大事であること、証人尋問は7月あたりになりそう、との説明があった。次いで支援の方々から発言を受ける。毎回参加

のJAL争議団は「解雇された悔しさを共有して闘い抜く」。はるばる岡山から何度目かの傍聴に駆け付けた全国一般の方からは「市教委申し入れの際の当局担当者の姿勢に呆れた、Sさんには是非原職復帰してもらいたい」。青葉郵便局郵便メイト清水さんは「自身の雇い止め取消訴訟一審勝訴

で随分元氣を取り戻した、控訴審でも頑張る、Sさんにも是非元氣になる結果が出てほしい」とエール。全学労連の佐野議長は「申し入れでの当局負担の『この件では交渉しない』は問題発言。労使交渉の意味が分っていない」と批判。証人となったNさんは「被告側証人の陳述書はひどい。嘘を並べ立てている。し

かし一番の問題は市教委の体質。少しでもまともにするために奮闘したい」。Sさんからは「働いていた職場のアルバイト全員解雇されることになった。2度目の解雇だ。がへこたれずにいるのは闘い続けてきたから。証人尋問を頑張る」と決意表明。最後に委員長の小内から支援への謝辞が述べられて集会を終えた。

社会保障・税の共通番号は
県教委の責任で!

先日、がくろう神奈川は県教委に社会保障・税の共通番号について申し入れを行った。

趣旨は①収集・管理は県教委の責任で行うこと、②通知文はわかりやすいものとし全て出し直せ、③通知内容の整合性を図れ、④説明会を行え、というもの。

①は言わずもがな。地方公務員法の「秘密漏洩」の罰則規定を大幅に上回る厳罰が規定される、そんな共通番号に係る責任を私たちに押し付

けられてはかなわない。②について。当たり前のことだが、通知文はわかりやすいものでなければならぬ。ところがこのかん出されている通知文は、後からの訂正・追加が多い。しかも、取扱について明確な表現や指示、規定を避けた、曖昧な物言いが目立ち、多くの学校で困惑している。

更に③。通知文相互の整合性が取れていない。厚生課から出された財形貯蓄に係る通知文は「個人番号関係事務事業者としての責任を果たせ!」

人番号関係事務における特定個人情報取扱要領」と全く整合していない。また、一方で「目的の明確でない写しは作成するな」としながら、他方で写しの保管を前提とした文書が出ていたりする。そして何より、一方的に数々の通知文を送りつけるのみで、具体的な説明会もなされなければ、法律が想定している事務取扱担当者への教育・研修も一切ない。

こんな形で業務を押し付けられ、責任まで負わされたのではたまったものではない。県教委は個人番号関係事務事業者としての責任を果たせ!

「政令市移管を巡る」全県集会報告Ⅱ

現行学校事務職員制度の数々

悪化の恐れ

3月3日、県民センターに於いて、政令市移管を巡る現状を検証する全県集会が開催された。相模原市と川崎市は一定の水準が確保される見込みであるものの、横浜市を初めいくつもの点で悪化する恐れがある。それを踏まえ、引き続き「現行水準を確保せよ」の要求を強める必要性が指摘された。

相模原市・川崎市で学校事務職員制度を存続へ

「任用一本化を阻止することで学校事務職員制度を維持することは、現在の勤務条件を引き継ぐための不可欠な要素である。そのことで「学校事務職員」として採用になり、学校への配置（定数）、独自給料表や学校間人事異動も原則として現状と同様になる。この点2市には、移管に際しては存続することを確認させた。しかし、横浜市は未だ明言を避けている。

不明な内容が山積みの勤務条件

これまで一定明示させたが、移管1年を前にしても未だ不明なことが多く存在している。

賃金：昇給はどのように

為されるのか？退職金は削減されないのか？格付けは現状と異なるのか？（若年層の2・4級への昇任条件や給与水準は維持されるか？5・6級の扱いは？）扶養・住居・通勤・特勤手当等は下がらないのか？さがるなら激変緩和措置はどうなるのか？等

任用制度：（知事部局には

ない臨任制度は存続するののか？）再任用制度は変更するののか？

勤務：勤務時間や休暇の

種類の変更や年休の時間取得の制限がなされるのか？

業務：現行の業務処理は

どう変化するのか？職務内容は変更されるのか？

現行水準悪化を

食い止めよう

意見交換では、「行政の勝手では済まないとする移管で県内の学校事務の扱いが悪化・分断されるのは許せない。」

「横浜市など三市に、最低でも現状を保障しろとの要求を強めよう。」との声が上がった。
*集会資料残部あります。お分けます。

核も被ばくも無い もう一つの社会を創ろう！

福島第一原発の事故から丸5年。東電、日本政府の責任が問われないままに、原発再稼働や海外への原発輸出が議論されている。

福島では、県が認定した「震災関連死」がこの一年で300人以上増え、震災による死者数をはるかに超えた約2千人がすでに亡くなった。通常は百万人に一人の割合でしか発生しない子どもの甲状腺

ヘイトスピーチ止めろ！

川崎・桜本の街から

私の職場は川崎市立桜本中学校で、在日コリアンが多く住む地域にあり、同校には外国籍生徒も多く在籍している。その桜本地域を目標としてヘイトスピーチデモが在特会のメンバーにより、この間連続して行われた。その一団は日の丸を振り、「朝鮮人はゴキブリだ。死ぬ」などのヘイトスピーチを連呼してデモ行進した。

1月31日のヘイトデモには60人の差別者集団デモに対しデモを阻止しようと1000人の市民労働者が集まった。

直前の集会で、「差別はよくない。みんな仲良くしよう、僕は大人を信じたい」と訴えた同校の生徒も保護者、友人とともにこの中において、デモ隊の桜本地域への進入阻止のため走り回っていた。結果、圧倒的多数の人々の力で、桜本への進入は直前で阻止できた。

桜本は多様な人々が生活している地域だ。差別から最も遠い地域でもある。市民としても学校職員としても、この桜本に差別者集団を入れる訳にはいかない。

(K)

原発のない未来へ！



つながろう福島！
守ろういのち！
福島原発事故から5年
チェルノブイリ事故から30年
3.26 全国大集会
2016年3月26日(土)
代々木公園
メインステージ・野外ステージ
サブステージ・東山公園

他にも様々な方々が参加されます。参加しよう。